

第 1 回 新千里東町 ラウンドテーブル会議記録

2012 年(平成 24 年)12 月 16 日(日) 14 時～17 時 新千里東町会館 (2 階)

【概要】 テーマ:「東町での情報デリバリーのありかたを考える」

これまで団体や地域活動を進める上で情報の伝達の難しさがあり、協議会発足後も東町ビジョン実現に向けて情報発信に配慮してきたが、協議会の理解を深めていくことに苦慮している。

地域のコミュニティ形成のため、情報デリバリーの担い手の問題やよりていねいな情報発信で知りたい情報がすぐに伝わるまちづくりでのあり方など検討する必要性が高まった。

そこで今回 1 回目のラウンドテーブルを開催し、「東町の中の情報が必要な人に十分行き渡るための場所・設備、人材をどのように組み合わせれば、効率的な情報のデリバリーの仕組みとなるか」について、約 3 時間かけてフリーに話し合った。参加者は 29 名でした。

【話し合いの経過】

- ・参加者は 3 つのグループに分かれ、昨年度の準備委員会時代に提言頂いた数多くの貴重な意見を 15 分程かけて読み込んだ。
- ・その後、グループ内で、テーマに関する意見をフリーに発表し、質疑を交わし議論を深めた。
- ・東町の発する情報を欲しない人、住戸へのポスティングを拒否する団地がある中で、発信した情報が相手方にきちんと届く仕組み作りの難しさを再確認した。
- ・地域のコミュニティ形成にとり、多くの人に必要な情報を届けるだけでなく、いつでも住民の声を拾い上げることのできる場所・環境が必要であり、現状における問題の有無、改良すべき課題、具体策などを議論するべき。
- ・情報のあり方や伝え方の他に、情報の集積と交流の拠点については、「住民のための既存の諸施設をもっと活用すべき」との意見、情報の受発信と交流の担い手の人材確保のための有償ボランティアの導入については、「諸団体で活動する人は全て無償のボランティアでやってきたので、一部の人だけ有償とするのは困難」との問題提起から検討が始まった。
- ・全体討議に入り「どの団体も、現在はボランティアの担い手を確保しているが、次の担い手探しは苦慮しており、10 年後を考えると現在とは別の仕組みを考慮する必要がある。」こととなった。
- ・「住民同士が交流する場となり、しかも、諸団体の拠点となり、情報のデリバリー作業を行う場所となる拠点として『東町サロン』(仮称)を検討してはどうか。」と具体的な提案があり、参加者のおおかたの賛同を得た。

【提案】

- ・東丘小のコミュニティルームを諸団体が利用しやすくするための改善策を検討するべきだが、住民が気軽に立ち寄って交流する場所としては適当とは言えない。従って、情報受発信の作業を行ったり、住民が気軽に立ち寄れる場所が必要になってくる。

- ・「東町サロン」(仮称)のような拠点を近隣センターの一角に検討してはどうか。そこは、住民同士が交流する場となり、しかも、諸団体の拠点となり、情報のデリバリー作業を行う場所となる。豊中市市民活動情報サロン(阪急豊中駅)、加古川市や東京都吉祥寺、吹田市などに類似の事例がある。
- ・拠点(場所)に関して次ように意見が整理された。
 - ・コミュニティルームは、現在利用している団体の利用実態を考慮すると、活動拠点を別の場所に作った後もその必要性は変わらない。
 - ・街角広場については、地域自治の話をするような場所とはならない。
- ・こうした拠点を作ると、常駐スタッフ(人数は 1、2 名か複数かは検討)が必要になってくる。今でこそ、どの団体もボランティアの担い手を確保出来ているが、次世代の担い手探しには苦慮している。これからのことを考えて、現在とは別の形、つまり有償ボランティアの制度(何らかの Pay をしてボランティアに参加して貰う)を検討する必要があるのではないか。ただし、諸団体が納得出来るようにすべき。
- ・場所の確保に必要な費用を、各団体からの拠出金で賄う方法も考えられる。
- ・なお、この拠点が出来たら、発生費用をカバーするため、施設・設備を活用して収益を上げることも検討してはどうか。「ひがしおか」の広告収入なども検討可能である。

【提案を受けて今後の進め方】

- ・広報ひがしおかの編集方法の検討は、新聞委員会で行う。
- ・有償ボランティアと「東町サロン」(仮称)を含む情報デリバティブシステムに関わるその他の内容については、ラウンドテーブルの意見及び提案を 1 月度理事会に答申し、審議した上で具体化を検討する。

Aグループ／参加者:8 名

【意見(下図)を総括すると】

広報紙「ひがしおか」の編集方法に関する議論に時間をかけた。(場所・人材については議論出来なかった)

従来、東町全体に関わる話題を中心に編集してきたが、そうした記事が読みたい記事かどうか。1つの団体の小さな問題でもゆくゆく全体に関わることになる場合もある。住区の中のことに力点をおいて取り上げて行くべきではないか、という意見が紹介された。質疑応答の中で、イベント実施後の報告記事が読者にとって必要な記事かどうか疑問、記録を残すという目的であればホームページへの投稿でよいのでは？という意見が出された。



Bグループ／参加者：9名

【意見(下図)を総括すると】

活動拠点は既存の施設の活用が先、積極的に賛成することはない。情報デリバリーの基本はリアル、双方向性を大事にすべき。有償ボランティアの必要性は理解する、但し、公平性が重要。ボランティア活動はダディーズのようにモチベーションを高めて行われることが理想だが難しい。有償ボランティアに係る費用は「ひがしおか」が広告をとって賄う方法がある。このような議論を経て、結論として、「コミュニティルームを使い易くする」、「街角広場を近隣センター角地に移転を検討する」、「ホームページの認知度をUPする」となった。

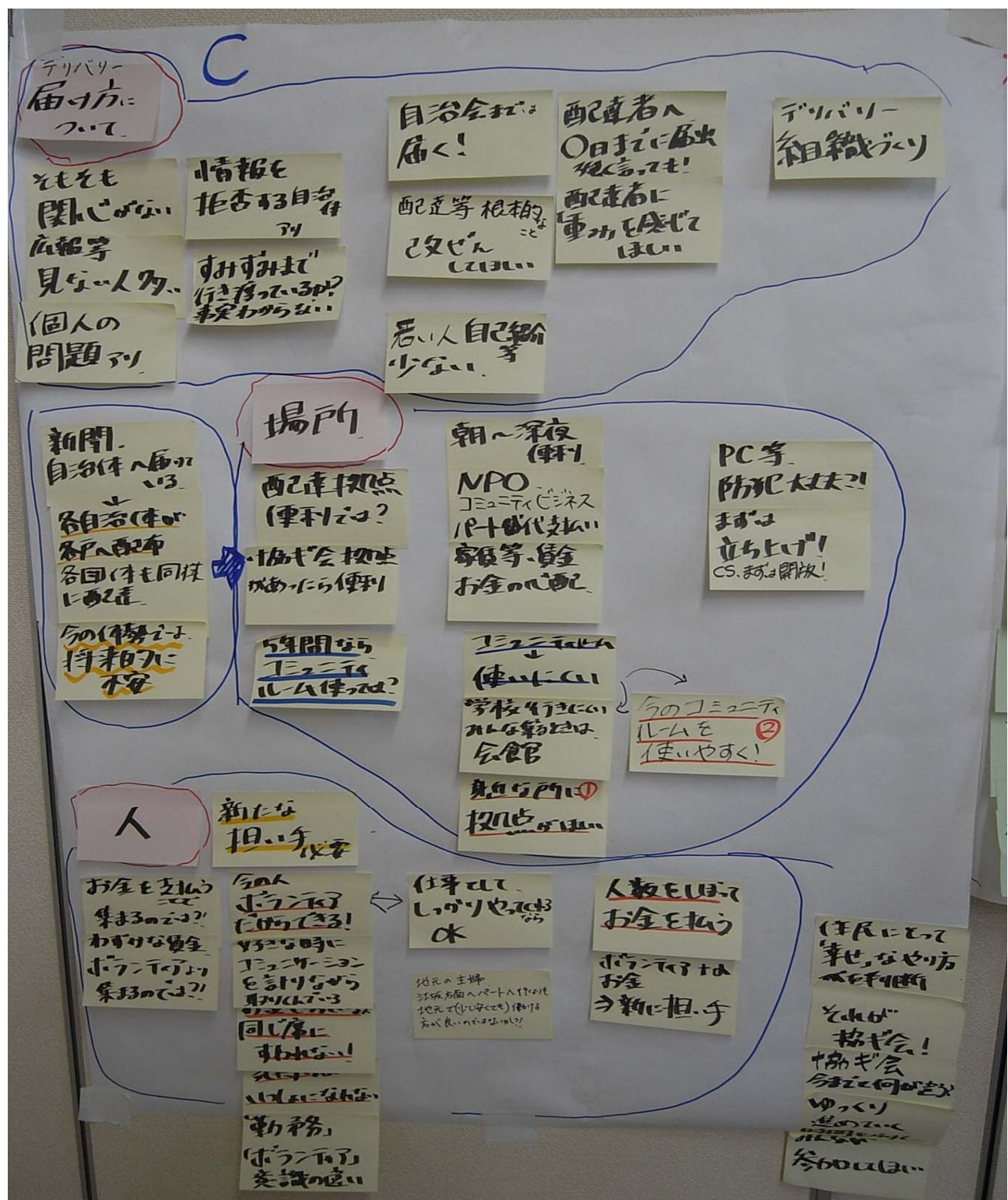


Cグループ／参加者：10 名

【意見(下図)を総括すると】

町の情報に無関心な人、配達を拒否する団地など情報が届かない事情はあるが、根本的な改善も必要。

「情報受発信場所の現状は不安、拠点があれば便利、現在の拠点(コミュニティルーム)を使い易くすることも重要だが身近なところに欲しい」「担い手を新たに求めるには、ボランティア+α(金銭)が必要。しっかりやってくれるならお金を出すこともOK」「住民にとって幸せなやり方を検討するのが協議会、それには東町の各団体が協議会と一つの組織にまとまる必要がある」等の意見があった。



〔全体討議〕

【既存施設の活用と問題点】

- ・コミュニティルームを利用し易くするための方法を検討する必要があるが、住民同士が気軽に立ち寄って交流する場所ではない。また、現在利用している団体の利用実態を考慮すると、情報受発信拠点のような場所が作られたとしても、コミュニティルームは引き続き必要となる。
- ・現在の街角広場については、気軽に立ち寄れる場所であり、地域自治の話をするような場所とはならない。

【提案】

- ・「東町サロン」(仮称)…既存団体とは別の組織・場所が近隣センターの一角にあるとよい。
- ・機能としては、住民同士の交流の場、諸団体の拠点、情報のデリバリー作業を行う場。
- ・常駐スタッフを置く(人数を 1、2 名にするか複数にするかは検討)となれば経費が必要になる。
- ・有償ボランティア制度を検討する場合、団体間の公平性を保つことが条件となる。
- ・収益を上げて発生費用を極力カバーすることを検討する必要がある。
- ・場所の確保に必要な費用は各団体からの拠出金で賄う方法も考えられる。
- ・検討を始める前に協議会理事会の承認を得る必要がある。

